



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：ウィーン・グループとの核問題をめぐる交渉に関するイラン要人発言  
(9日付現地紙)

9日付イラン現地紙は、同国の核問題に関する政府要人らの発言について報じた。

1. ウィーン・グループとの交渉に関するイラン要人発言

(1) 8日に行われたシャーミー・レバノン外相との共同記者会見でのモッタキー外相発言

- a. 現在、天野 IAEA 事務局長は、ウィーン・グループとイランとの交渉の日取りについて調整を行うために、関係国に宛てた書簡を作成中である。
- b. イランは原則として、合意に基づく期日にて同交渉に参加する用意がある。
- c. ウィーン・グループとの交渉では、燃料交換及びイラン、ブラジル、トルコ外相によるテヘラン宣言の枠組みにおけるメカニズムがアジェンダとなる。

(2) 記者会見でのボルジェディ国会安保外交委員長発言

ウィーン・グループとの交渉の明確な日程は明らかになっていない。IAEA 及び SNSC が同交渉の明確な日程を発表するであろう。

2. 安保理決議 1929 を受けた日本政府の措置に関するアラグチ在京イラン大使発言

- (1) 米国が世界に実施を働きかけているイランに対する一方的な制裁措置に関して、日本の政治関係者が賢明かつ理性的に行動することが期待される。日本は、長期的利益を考慮しなければならない。
- (2) 日本政府は、国際社会のルールに従った決定を行い、国連安保理決議を超えた一方的な制裁措置を採ることを控えることが期待される。
- (3) 日本のように中東地域情勢により良い理解を有している国々は、米国の罠に陥ってはならず、過去の失敗経験を繰り返してはならない。
- (4) 日本政府関係者に対して、彼らの米国の友人達に制裁の道は成功しないであろうことを忠告するよう求める。

3. 韓国の対イラン制裁についての Park Jae-hyun 駐イラン新韓国大使発言（韓国メディアによるインタビュー内容の引用）

韓国は、イランに対する独立した制裁を検討している。韓国・イラン関係は困難な局面に入る可能性がある。